

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和7年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 176-0001

所在地 東京都練馬区練馬1-20-2

評価機関名 株式会社 日本生活介護

認証評価機関番号

機構 02 - 015

電話番号 03-3991-8440

代表者氏名 佐藤 義夫

印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	齋藤 貴明	経営	H1102028
	②	平林 亨子	福祉	H2301072
	③	小田嶋 ひろ子	福祉	H2301098
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	学童クラブ			
評価対象事業所名称	上北沢小新BOP学童クラブ			
事業所連絡先	〒	156-0057		
	所在地	世田谷区上北沢4丁目22番29号		
	TEL	03-3303-5252		
事業所代表者氏名	事務局長 高橋 則行			
契約日	2025 年 4 月 16 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2025 年 7 月 1 日			
利用者調査結果報告日	2025 年 9 月 1 日			
自己評価の調査票配付日	2025 年 6 月 26 日			
自己評価結果報告日	2025 年 9 月 1 日			
訪問調査日	2025 年 9 月 11 日			
評価合議日	2025 年 9 月 11 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査については、アンケート調査を行った。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名

印

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1) 命を守られ成長できること 2) 子どもにとって最もよいこと 3) 意見を表明し参加できること 4) 差別のないこと</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割 子どもの変化に気づき対応できること。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感) 子どもが安心して生活ができるよう、細心の注意を払い対応すること。</p>

調査対象	登録児童全員を対象とした。
調査方法	Webによるアンケート調査は、QRコードを記載した案内文を配布し、回答が直接評価機関に届くようにした。

利用者総数 127

	アンケート	聞き取り	計
共通評価項目による調査対象者数	127	0	127
共通評価項目による調査の有効回答者数	40	0	40
利用者総数に対する回答者割合(%)	31.5	0.0	31.5

利用者調査全体のコメント

調査対象者127名のうち、40名から回答を得ることができた。
 満足度の高い項目として、「病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか」「おやつ時間が楽しいひとときになっているか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」「子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか」「学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか」などがあげられる。
 総合的な満足度では、39名が「大変満足、満足」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「学童クラブで過ごすのが楽しい」「もっとスポーツやゲームをしたい」「工作のイベントが増えると嬉しい」などのコメントがあがっている。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 学童クラブでの活動は楽しく、興味を持てるものとなっているか	34	5	0	1
34名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。また、「カードゲーム、校庭遊びなど様々な活動を楽しんでいる」「スポーツイベントなどで友達と交流したり、本を読んで楽しんでいる」などのコメントがあがっている。				
2. 職員は話し相手や、相談相手になってくれるか	31	3	1	5
31名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「話を聞いてくれる」「感じのいい先生が多い」などのコメントがあがっている。				
3. おやつ時間が楽しいひとときになっているか	36	3	1	0

36名が「はい」、3名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「おやつを楽しみにしている」「チョコレートやアイスクリームなどがおいしい」「とても楽しみ」などのコメントがあがっている。

4. 学童クラブでの約束ごと、活動内容について話し合う機会を設け、職員は意見を尊重してくれているか	16	7	2	15
16名が「はい」、7名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「先生はやりたいことについて聞いてくれる」「チーム分けなど希望を聞いてほしい」などのコメントがあがっている。				
5. 職員から学童クラブの約束ごとの説明を受けているか	34	1	0	5
34名が「はい」、1名が「どちらともいえない」と回答している。また、「説明はわかりやすかった」とのコメントがあがっている。				
6. 学童クラブ内の清掃、整理整頓は行き届いているか	27	6	5	2
27名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、5名が「いいえ」と回答している。また、「おもちゃの整理整頓が必要だと思う」「本棚が乱れている」などのコメントがあがっている。				
7. 職員の接遇・態度は適切か	32	5	0	3
32名が「はい」、5名が「どちらともいえない」と回答している。また、概ね接遇や態度に関しては適切と感じるなか、「たまに児童への呼びかけについて気になることもある」とのコメントがあがっている。				
8. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	39	0	0	1
39名が「はい」と回答している。また、全体的に、児童は先生が怪我や体調不良の際に助けてくれることに、安心感や信頼感を持っている様子が窺える。				
9. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	35	2	1	2
35名が「はい」、2名が「どちらともいえない」、1名が「いいえ」と回答している。また、「トラブルはほとんどないけど、もしもの時には先生が助けてくれると思う」「たまに先生がトラブルに気づかないこともある」などのコメントがあがっている。				
10. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	35	3	0	2
35名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、全体的に、先生が児童の気持ちを大切にしてくれていると感じている様子が窺える。				

11. 子どものプライバシーは守られているか	18	6	2	14
18名が「はい」、6名が「どちらともいえない」、2名が「いいえ」と回答している。また、「秘密にしていることはない」などのコメントがあがっている。				
12. 子どもの不満や要望は対応されているか	30	3	0	7
30名が「はい」、3名が「どちらともいえない」と回答している。また、「あまり困っていることはない」とのコメントがあがっている。				
13. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	11	4	4	21
11名が「はい」、4名が「どちらともいえない」、4名が「いいえ」、21名が「非該当・無回答」と回答している。また、「外部のカウンセラーに相談できると話を聞いた」とのコメントがあがっている。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している ○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝える ○非該当
	カテゴリー1の講評	
	区の理念や方針について職員全体で共有し、保護者にも周知を図っている クラブでは、世田谷区放課後児童健全育成事業の運営方針と新BOP運営基準に基づき、理念や基本方針を職員全体で共有している。理念には「子どもが安心して、楽しく・自由に遊べる環境のもとで、生きる力と主体性を伸ばし、ひとりひとりの成育を支える」ことが謳われている。さらに「子どもの権利の4原則」を明示している。これらの理念や方針は、入会説明会や見学対応、学童クラブのしおり等を通じて保護者にも周知されている。こうした実践により、子どもが安心して楽しく過ごせ、保護者から信頼される育成環境の確立を目指している。	
	児童館長と事務局長が中心となり、運営に関わる方針や重要事項の検討を行っている 児童館長と事務局長が中心となり、クラブ運営に関わる方針や重要事項を検討し、リーダーシップを発揮している。館長や局長は理念や基本方針の実現に向け、職員が取り組むべき方向性を明示している。日々のミーティングには常勤・会計年度任用の職員が参加し、要配慮児への対応を含む情報共有を緊密に行っている。プレイングパートナー職員へも情報を伝達している。さらに月1回のロングミーティングでは、行事や運営方針について積極的に意見交換を重ねている。こうした体制により、クラブ運営に関する重要案件の検討や決定手順が整備されている。	
	所管課の決定事項は職員に周知されており、保護者にも重要事項について伝えている 所管課(児童課および地域学校連携課)で決定された内容と検討の経緯について、館長や事務局長を通じて職員に周知されている。伝達の際は、所管課から館長・事務局長を経由し、児童指導や指導員へと確実に共有されている。さらに、重要文書は「レインボーファイル」にまとめて保管しており、職員がいつでも確認できるようにしている。また、保護者には連絡システムでの配信やお便りなどを活用し、必要に応じて決定内容や経緯を知らせている。こうした仕組みにより、意思決定やクラブ運営の透明性を確保している。	

2 カテゴリー2		
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリー1(2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
●あり ○なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当
カテゴリー2の講評		
<p>保護者や職員の意向を把握し、所管課とも協議して運営改善に役立てている</p> <p>クラブでは、保護者や利用者や職員の意向を把握し、運営に反映させるための仕組みを整えている。保護者会を年2回開催し、夏休みの過ごし方や次年度に向けた意見を聞くとともに、日頃のクラブ運営への要望を把握している。さらに、年1回の個人面談を全員に実施し、2年生については「自立に向けて」をテーマに話し合うなど、子どもの成長段階に応じた意見収集を行っている。また、職員の意向は毎日のミーティングや月1回のロングミーティングで把握し、運営改善に役立てている。運営に関する要望や意見については、区の所管課や館長と協議している。</p> <p>地域の関係者との情報交換を継続的に行い、ニーズや課題について把握している</p> <p>クラブでは、地域や福祉の現状を把握し、情報収集を継続的に行っている。新BOP連絡協議会を年2回開催し、学校関係者や主任児童員、青少年関係者、保護者代表と地域の課題を共有し、遊び場確保などについて児童館と連携している。新BOP事務局長と学校は新1年生の増加への対応を話し、使える部屋などを検討している。こうした動向把握に加え、所管課からの情報を踏まえ、学童クラブ事業全体の課題やニーズを把握している。経営状況についてもミーティングを通じて検討し、限られた資源を効果的に活用する運営を進めている。</p> <p>クラブとしての単年度計画を作成し、目標を掲げて具体的な取り組みを進めている</p>		

区の理念や運営方針の実現に向け、クラブとしての単年度計画を作成している。年間目標として「挨拶をする」「友だちを大切にする」「思い切り遊ぶ」という三つの柱を掲げ、さらに各月の目標を設定し、日々の活動に反映している。計画は行事や制作、スポーツなどのBOP活動、学童クラブ関連、学校関連、児童館や地域との連携といったカテゴリごとに整理され、具体的な実施予定を立てている。年度末には職員全体で評価と反省を行い、成果や課題を共有し、次年度計画に活かしている。また、進捗状況は月ごとに確認し、必要に応じて見直している。

3 経営における社会的責任			2/2
サブカテゴリ-1 (3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当	
サブカテゴリ-2 (3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当	
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当	
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当	
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当	
サブカテゴリ-3 (3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当	
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当	
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当	
●あり ○なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当	

カテゴリ3の講評

公務員や子どもに関わる職員として守るべき事項についての理解を深めている

職員に対して守るべき事項について理解を深めている。「世田谷区新BOP事業における取組みについて～新BOPが目指していくこと～」には、継続性や積み上げ、職員間での視点共有、切磋琢磨など、職員に求められる姿勢が明記されている。また、区放課後健全育成事業の運営方針に基づくチェックリストを活用し、日常の実践に反映させている。会計年度任用職員には地方公務員法や関連規則を周知し、服務に関する理解を促している。日常的には事務局長や児童指導が職員の業務姿勢を確認し、必要に応じて助言や指導を行っている。

苦情窓口について説明し、子どもへの不適切な関わりがないようにしている

クラブでは、子どもや保護者が安心して意見を伝えられるよう、入所時の説明で苦情窓口を紹介し、ホームページにも記載している。所管課や児童館長が相談先であることも伝えている。父母会会長からの相談や児童館に来る子どもを通じた意見も共有し、要望に適切に対応できる体制を整えている。また、子どもへの不適切な関わりや虐待が起らぬよう、日々のミーティングで職員間の意見交換を行い、互いの言動を振り返っている。さらに、家庭での疑わしいケースがあれば、小学校や子ども家庭支援センター、児童相談所と連携した対応を図っている。

クラブの情報を発信するとともに、地域の関係機関との連携を深めている

クラブでは、透明性を高めるため「新BOPだより」の配布や連絡協議会での情報開示を行っている。また、子ども家庭支援センター主催の子育て会議や児童館の地域懇談会に参加し、地域のニーズを踏まえて貢献できるように努めている。さらに、児童指導は地域のイベントにも参加し、地域住民とのつながりを深めている。ボランティア受け入れは現状難しいが、関係機関との協議や情報共有を重ね、共通課題に協働して取り組める体制を整えている。

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
●あり ○なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリー4の講評		
<p>安全対策マニュアルに基づいた定期的なチェックを実施し、安全な運営につなげている</p> <p>クラブでは、所管課作成の安全対策マニュアルを基盤とし、新BOP安全対策チェックリストを月1回実施している。救急体制や緊急連絡網の整備、避難方法や経路の確認、出席簿や緊急連絡カードの配置、緊急連絡先一覧表の掲示、日常的な安全点検などを確認している。また、安全マニュアルや指導手引きを基に、定期的なミーティングで職員間の共通理解を図っている。さらに、新しい情報はレインボーファイルにまとめて周知し、指導員が常時確認できるようにしている。こうした体制により、予測されるリスクへの備えを徹底し、安全な運営を実現している。</p> <p>ケガが発生した場合の対応について保護者に周知するとともに職員の対応力を高めている</p> <p>クラブでは、避難訓練や緊急医療対応を定期的実施している。けがの際には保護者に通院を依頼するなど適切な対応を取っている。保護者には文書を配布し、けがなどへの対応方法について周知を図っている。アレルギー対応ではおやつ時の席を分けるなど、きめ細かな配慮を徹底している。さらに、事故等が発生した場合には、事故報告書を所管課へ提出し、ミーティングで要因と対応を分析し、再発防止策を協議・検討している。子どもの安全向上のため、定期的に職員研修を通じて対応力を高めている。</p> <p>個人情報の取り扱い手順の遵守徹底を図るとともに、電子データも適切に管理している</p> <p>個人情報の収集・利用・保管・廃棄について法令に則り規程を定め、職員に周知し遵守を徹底している。収集した情報は整理されたファイルにまとめ、鍵付きの書棚やロッカーで厳重に保管しており、電子データは区のサーバー上で管理されている。アクセス権限についても区が制限を設け、必要な人が必要なときに活用できる体制を整えている。開示が必要な場合には必ず所管課の許可を得ることとし、情報の重要性や機密性を踏まえた運用を徹底している。これらの仕組みにより、情報漏えい防止と適正な情報活用の両立を図っている。</p>		

5			カテゴリ-5	
5			職員と組織の能力向上	
			サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			12/12	
評価項目1			事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		○非該当	
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		○非該当	
評価項目3			事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		○非該当	
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		○非該当	
評価項目4			職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		○非該当	
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		○非該当	
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		○非該当	
			サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			3/3	
評価項目1			組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		○非該当	
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		○非該当	

あり なし

3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる

非該当

カテゴリー5の講評

プレイングパートナーの採用を独自に行い、ニーズに合わせた人材採用に努めている

クラブの求める人材を確保できるよう工夫を凝らしている。プレイングパートナーの採用を独自に行い、主に紹介を通じて現場のニーズに合った人材を受け入れている。人材配置については、事務局長や児童指導の異動が欠員補充や必要に応じて行われるとともに、事業所の状況を踏まえながら将来を見据えた人材構成に取り組んでいる。また、人事考課制度は館長が管轄し、職員の育成状況や研修希望を反映させる仕組みを整えている。さらに、評価結果は処遇や称賛と連動させ、職員が意欲をもって働き続けられるよう配慮している。

職員が研修を受講できるように調整を図っており、学びの成果を共有している

児童指導の場合、主任・係長・課長という昇進ルートがあり、長期的な展望を持って働くことができるようにしている。また、勤務形態を問わず多様な研修の機会を設けており、区や都が実施する研修への参加を奨励している。さらに、受講した職員による伝達研修を内部研修として実施し、ロングミーティングの場で共有するなど、学びの浸透を図っている。研修受講の調整は容易ではないが、必要に応じて受講を推進し、職員一人ひとりの成長を支えている。こうした取り組みにより、全職員が職務に応じた専門性を高めることができるようにしている。

職員の勤務状況や健康状態などに配慮し、意欲や働きがいを高めることを目指している

クラブでは、職員が安心して働き続けられる職場づくりを目指し、勤務時間や休暇取得、健康やストレスの状況を把握している。健診やストレスチェックは区の制度を活用し、職員の心身の健康をサポートしている。また、日々のミーティングを通じて意思疎通を図り、職員が意見を出し合いながら業務改善や職場環境の向上につなげている。さらに、職員の意識を把握し、意欲や働きがいを高めるため、話し合う機会を積極的に設けている。職員一人ひとりの日常の気づきや工夫についても共有し合い、学びを積み重ねている。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

【重要課題】

一人ひとりの子どもが自立に向け、安心して、楽しく・自由に遊べる居場所となること

【具体的な取り組み】

職員の減少により、より効率的に人員を配置していくためプレイングパートナーの増員を図った。
また、配慮を要する子どもに人員が取られる期間もあったが、子どもの居場所を確保しながら対応した。

【取り組み結果の検証・今後の方向性】

プレイングパートナーを増員することで、子どもへの対応を図った。
人員の増加につながり、配慮を要する子どもへの対応の手順ができた。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

学童クラブの理念を具体的にしていくため、クラブでは「一人ひとりの子どもが自立に向け、安心して、楽しく・自由に遊べる居場所となること」という課題を設定した。
具体的な取り組みとして、職員減少に対応してプレイングパートナーを増員した。これにより人員配置が充実し、配慮を要する子どもへの支援体制も整備された。今後も人員体制の工夫を通じて、自立に向けた安心で自由な遊びの場を充実させていく。
上記の取り組みを通じて、クラブとしての課題を設定し、その実現のための取り組みを実施し、結果を検証して次年度の取り組みに反映させている。

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>【重要課題】 一人ひとりの子どもが自立に向け、安心して、楽しく・自由に遊べる居場所となること</p> <p>【具体的な取り組み】 集団遊びにおいて、遊びの種類を固定しない自由遊びの機会を増やした。</p> <p>【取り組み結果の検証・今後の方向性】 校庭遊びに出てくる子どもが増え、様々な遊びに触れる機会が増えている。 遊び道具を今年も増やしている。折り紙などで作るなど、職員が工夫しながら子どもの遊びが充実するように取り組んでいる。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていない
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p>	
<p>学童クラブの理念を具体的にしていくため、クラブでは「一人ひとりの子どもが自立に向け、安心して、楽しく・自由に遊べる居場所となること」という課題を設定した。</p> <p>具体的な取り組みとして、子どもが安心して自由に遊べる居場所づくりを目指し、集団遊びで自由度を高めた結果、校庭で活動する子どもが増え、多様な遊びに触れる機会が拡大した。職員も折り紙などを活用して遊び道具を工夫し、子どもの遊びの充実を進めている。</p> <p>上記の取り組みを通じて、クラブとしての課題を設定し、その実現のための取り組みを実施し、結果を検証して次年度の取り組みに反映させている。</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
評価項目1 子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもや保護者が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもや保護者の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や保育所、幼稚園等に提供している	○非該当
◎あり ○なし	4. 子どもや保護者の問い合わせや見学等の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ-1の講評		
<p>学童クラブでは、区のホームページを通じて情報を公開している</p> <p>学童クラブでは、区のホームページを通じて通年で情報を公開している。「新BOP学童クラブ募集案内」は、学校やクラブの連絡アプリを通じて配信されている。募集案内やポスターの掲示も行われており、保護者が日常的に目にする機会が多く、情報へのアクセスがしやすい環境が整っている。お迎え時にも、保護者に声掛けし、必要な事項を知らせている。複数の媒体を活用した情報提供により、保護者が必要とする情報を提供することができており、子どもや保護者が安心してサービスを利用できる土台を作っている。</p> <p>学童クラブの申請書類は紙で配布され、児童課からの案内も各家庭へ届けられている</p> <p>申請書類は、紙ベースで学童クラブにて各家庭に配布されるほか、児童課からのお知らせも届けられている。提出場所や締切日については、職員が保護者の状況を見ながら声をかけるなど丁寧な対応がなされている。現在は印刷物で配布している「学童クラブのおたより」も、今後は連絡アプリによる学期ごとの配信を予定している。個人面談のお知らせも同アプリで配信され、保護者の都合に合わせた日程調整が行われている。保護者の多様なニーズに応えようとする姿勢が感じられ、情報のわかりやすさと届きやすさへの配慮がなされている。</p> <p>クラブの見学希望者があれば、運営時間内で随時対応している</p> <p>クラブは、区役所との情報交換を行いながら、募集案内のポスターを保育園や公民館に掲示してもらうなど、地域との連携を図っている。見学希望があれば運営時間内で随時対応している。事前予約がなくても可能な場合があるが、職員の対応が行き届くよう事前連絡をお願いしている。見学の記録は日誌に残し、職員間で共有されている。また、小学校の就学健診時には職員が学校に出向き、終了後に見学案内を行うなど、保護者との接点を大切にしている。こうした柔軟で温かみのある対応は、保護者の安心感につながっている。</p>		

サブカテゴリー2		
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 8/8
評価項目1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している	○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容や利用者負担金等について、子どもや保護者の理解を得るようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している	○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの援助に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○非該当
●あり ○なし	3. サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)の受入れに向けた配慮及び環境整備を行っている	○非該当
●あり ○なし	5. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、生活の連続性に配慮した支援を行っている	○非該当
サブカテゴリー2の講評		
<p>入会説明会で、「新BOP学童クラブ」の概要や利用方法について説明している</p> <p>新年度開始前の3月に保護者向けの入会説明会が開催され、「新BOP学童クラブ」の概要や利用方法について丁寧な説明が行われている。説明会には児童館長や事務局長、児童指導が参加し、各家庭から1名の参加協力を得ながら運営されている。欠席者には別日に個別対応も実施している。写真の取り扱いなど重要事項についても保護者の意向を確認しながら進められている。子どもたちには4月当初にルール説明をしている。こうした取り組みは、家庭との信頼関係を築く第一歩として、安心感のあるスタートを支えている。</p> <p>子ども一人ひとりの事情に寄り添う姿勢が見られ、子どもや保護者の不安を軽減している</p> <p>利用開始に際しては、子ども一人ひとりの事情に寄り添う姿勢が見られる。「児童票」の提出がある配慮が必要な児童は、保護者の同意を得たうえで保育園や発達センターと連携し、生育情報の共有が行われている。アレルギー対応についても、事前面談や調査票を通じて丁寧に把握され、学校との連携も図られている。登室初日には職員がルールや過ごし方をわかりやすく説明し、上級生がサポートする体制も整えられている。知り合いと遊べる環境づくりや細やかな声掛けなど、子どもが安心して過ごせるような工夫が随所に見られる。</p> <p>利用を終了する保護者に対し、学童クラブでは区独自の「ゆるやか支援」を行っている</p> <p>利用終了に向けて、子どもが安心して次のステップへ進めるよう、保護者との個人面談を通じて自立へのプロセスを共有する取り組みが行われている。年度末の保護者会では、利用を終了する保護者に対して、子どもの放課後の注意点を伝えるとともに、BOPや児童館などの利用を案内している。学童クラブでは区独自の、「ゆるやかな支援」を行っており、在籍児の希望者は、4年生の夏休み終了時まで、BOPに昼食を持って来所できるようにしている。子どもたちの生活の連続性を大切にしながら、安心して学童クラブを終了できるよう支えている。</p>		

サブカテゴリ-3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	10/10
評価項目1 子どもの視点に立った育成支援の目標に沿って育成支援の計画を作成している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画は、目標に沿って年間を見通して作成している	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、援助の過程を踏まえて作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)に対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当	
●あり ○なし	4. 育成支援の目標や計画について保護者の理解を得られるように説明している	○非該当	
評価項目2 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当	
●あり ○なし	2. 育成支援の計画に沿った援助の内容について具体的に記録している	○非該当	
●あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)については一人ひとりの子どもの状況や援助の内容を具体的に記録している	○非該当	
評価項目3 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 育成支援の計画の内容や記録を、職員すべてが共有し、活用している	○非該当	
●あり ○なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている	○非該当	
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄り等話し合う機会を設けている	○非該当	
サブカテゴリ-3の講評			
年間を通して見通しを持った育成支援の計画が立てられ、三つの年間目標を掲げている クラブでは、年間を通して見通しを持った育成支援の計画が立てられている。新BOPとして三つの年間目標を掲げ、月ごとの目標は子どもの様子を見ながら前月中頃に決定し、子どもが見える場所に掲示している。月1回のロングミーティングでは、目標の振り返りが行われ、職員間で共有されている。障害のある子どもについては、保育園からの情報をもとに関わり方を工夫し、日々の記録を通じて支援内容を見直している。保護者には、保護者会や個別面談を通じて子どもの様子を丁寧に伝えており、家庭との連携を大切にしている。			
日々の活動の中で、子ども一人ひとりの様子を記録する体制が整えられている 日々の活動の中で、子ども一人ひとりの様子を記録する体制が整えられている。出席人数の記録に加え、気になる子どもの様子は職員が日誌に記入し、必要に応じて個人別の記録ノートにも記録されている。育成支援計画に沿った援助内容も具体的に記録されている。特に、配慮が必要な子どもについては、発達の状況や支援の工夫などが細やかに記されている。記録することで、子どもの日々の変化を見逃さず継続的な支援につながっている。職員間で共有することで、より安心できる環境づくりを目指している。			
育成支援計画や記録をもとに、子どもの様子を日々共有する仕組みが整っている 職員間で、育成支援計画や記録をもとに、子どもの様子を日々共有する仕組みが整っている。ミーティングでは児童指導が中心となり、午後には全体で30～40分ほど時間を取り、さらに子どもたちが帰る前に必ず話し合いが行われている。シフトの関係で後から勤務に入る職員には、業務前に申し送りがあり、夕方には遅番の職員にその日の様子や翌日の予定が伝えられている。また、事例を持ち寄り話し合う機会も設けられており、所管課の研修や巡回相談を通じて、外部の専門的な視点も取り入れながら、子どもへの理解を深める工夫がされている。			

サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている ○非該当
●あり ○なし	2. 子どものプライバシーに配慮して援助している ○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 日常の援助の中で子ども一人ひとりを尊重している ○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮して援助している ○非該当
●あり ○なし	3. 学童クラブ内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう組織的に予防・再発防止を徹底している ○非該当
サブカテゴリー5の講評	
<p>子どもに関する情報を外部と共有する際には、保護者の同意を得ることを基本としている</p> <p>子どもに関する情報を外部と共有する際には、保護者の同意を得ることを基本としている。保護者から悩みの相談があった場合には、状況に応じて関係機関と連携することがあり、その際も所管課に確認のうえ丁寧に同意を得よう配慮されている。職員には守秘義務の重要性が周知されており、子どもの情報を外部で話さないよう徹底されている。着替えが必要な場面では、安心して行えるよう専用スペースを確保し、同性介助を基本としながらも柔軟な対応がされており、子どものプライバシーを守る姿勢が日常の支援にしっかりと根づいていることがうかがえる。</p> <p>職員は子ども一人ひとりの声に耳を傾け、その思いに応じた援助を行っている</p> <p>日々の支援の中で、職員は子ども一人ひとりの声に耳を傾け、その思いに応じた援助を行っている。子どもを尊重する関わり方をミーティングで話し合い、より良い支援につなげている。保護者の価値観や生活習慣にもできる限り配慮し、家庭とのつながりを大切にされた支援が心がけられている。こうした姿勢は、子どもの意思を尊重し、権利を守るという考え方が職員の意識の中にしっかりと根づいていることを示している。画一的ではなく、個々の子どもに寄り添った対応がなされている点は、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりに大きく貢献している。</p> <p>子どもの安全と尊厳を守るための取り組みが、日常の支援の中に組み込まれている</p> <p>クラブでは、子ども同士のトラブルやいじめの予防に向けて、職員が日々の言動に細やかな注意を払い、問題が見られた際には速やかに対応している。職員間での情報共有も丁寧にされており、プレイングパートナーについてもミーティングノートを活用しながら必要な情報を共有している。こうした体制により、子どもたちが安心して過ごせる環境が保たれており、万が一の際にも組織的に対応できる仕組みが整っている。子どもの安全と尊厳を守るための取り組みが、日常の支援の中に組み込まれていることが感じられる。</p>	

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化 サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況 5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている ○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している ○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている ○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や子ども・保護者等からの意見や提案を反映するようにしている ○非該当
サブカテゴリー6の講評	
<p>クラブでは、業務の標準化に向けて手引書やマニュアルが整備されている</p> <p>クラブでは、業務の標準化に向けて手引書やマニュアルが整備されている。児童課が作成した新BOP全体のマニュアルには、放課後児童健全育成事業の運営方針や安全マニュアルが含まれており、レインボーファイルにまとめて事務所に設置されている。誰でも手に取れるように工夫されており、職員が日常的に確認できる環境が整っている。「新BOP運営基準」や「学童クラブのしおり」を活用し、保護者会でも丁寧に説明が行われている。こうした取り組みは業務の透明性と一貫性を保ち、職員・保護者双方の理解を深めるうえで有効に機能している。</p> <p>業務手順などについて、所管課による定期的な更新やクラブでの見直しが行われている</p> <p>業務手順などについて、所管課による定期的な更新が行われており、クラブでも日々の気づきをミーティングで共有するなど、柔軟な対応がなされている。危険の芽を早期に摘むための話し合いが重ねられ、変更点は職員全員で確認するよう心がけられている。短時間勤務の職員にも情報が行き届くよう、掲示による周知と声かけが行われており、業務の標準化に向けた工夫が感じられる。こうした日常的な点検と見直しの積み重ねは、サービスの質を安定的に保つうえで大切な土台となっている。</p> <p>年度末にルールの見直しなど、業務水準の向上に向けた取り組みが継続的に行われている</p> <p>クラブでは、年度末にルールの見直しを行うなど、業務水準の向上に向けた取り組みが継続的に行われている。見直しにあたっては、職員だけでなく、子どもや保護者の実態や声を踏まえた内容となっており、現場の状況に即した柔軟な対応が図られている。こうした姿勢は、サービスの質を高めるだけでなく、利用者との信頼関係を築くうえでも重要な意味を持っている。支援のルールを整えながら、子どもたちにとってより良い方法を考える取り組みが、日常の支援に自然と活かされている様子がうかがえる。</p>	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

サブカテゴリー4																
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 29/29															
<p>1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じて援助している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">評価項目1の講評</p> <p>情報収集と職員間の共有の仕組みがあり、支援の統一性が図られている</p> <p>新年度の受け入れ前に、申請書に記載された子どもの情報を職員全体で共有する時間が設けられている。下校時には職員が子どもの様子を確認し、声掛けを通じて状態把握に努めている。また、学年ごとに個人面談を実施し、保護者から家庭での様子を聞き取ることで、子どもの発達状況を多面的に理解している。これらの情報は毎日の職員ミーティングで共有され、支援方針の統一が図られている。こうした体制により、職員間で子どもの特性や支援の必要性に関する認識が一致し、個別支援が円滑に行われている。情報収集と共有の仕組みが確立されている。</p> <p>異年齢交流による社会性の育成と職員の丁寧な対応により、子どもの発達を促している</p> <p>学童クラブは、放課後子供教室と一体的に運営されており、異年齢で遊ぶ機会が日常的に設けられている。イベントや生活の中で、高学年児童が下級生の手本となり、自然な形でリーダーシップを発揮する場面が見られる。職員は、子ども同士の関わりの中でトラブルが生じた際には、まず双方を落ち着かせた上で、時系列で自分の行動を振り返らせるよう促している。こうした対応により、子どもは自らの行動を客観的に捉え、子ども同士の関係性を学ぶ機会を得ている。異年齢交流を通じた社会性の育成と職員の丁寧な対応が、子どもの発達を促している。</p> <p>合理的配慮と子ども同士の助け合いが、安心して過ごせる環境づくりに寄与している</p> <p>職員は、配慮を必要とする子どもの特性を把握し、周囲の子どもと共に生活できるよう合理的配慮を行っている。その結果、支援が必要な子どもに対して、他の子どもが理解を示し、自然な形で手助けする姿が見られる。手助けをした子どもには職員が「ありがとう」「大人が見ているから大丈夫だよ」と状況に応じて声をかけ、肯定的な関わりを促している。こうした関係性の中で、子どもたちは互いの違いを受け入れ、共に過ごす力を育んでいる。職員の配慮と子ども同士の助け合いが、安心して過ごせる環境づくりに寄与している。</p>		評価	標準項目		◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当	◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当	◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当	◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当
評価	標準項目															
◎あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで援助している	○非該当														
◎あり ○なし	2. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め、お互いを尊重しながら協力し合い、関係を豊かに作り出せるよう援助している	○非該当														
◎あり ○なし	3. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか等)に対し、子どもの意見に耳を傾け、感情の高ぶりを和らげること等ができるよう援助している	○非該当														
◎あり ○なし	4. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)が、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○非該当														
<p>2 評価項目2 日常の援助を通して、子ども一人ひとりの生活や遊びと集団全体の生活が豊かに展開されるよう工夫している</p> <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>標準項目</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> <tr> <td>◎あり ○なし</td> <td>3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している</td> <td>○非該当</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">評価項目2の講評</p> <p>子どもが自ら遊びを選択できる環境や異学年交流により、集団生活を豊かにしている</p> <p>クラブでは、ホワイトボードにその日の遊び・場所・時間の予定を表示している。子どもが、室内、校庭、体育館などで自ら好きな遊びを選択できる環境づくりに加え、異学年で遊ぶ機会を意図的に設けている。職員は、年齢や発達段階の違いを踏まえた遊びの設定や声掛けを行い、自然な交流が生まれるよう配慮している。これにより、異学年間の関係性が生まれ、協調性や社会性の向上につながっている。異学年交流を通じて、子どもたちが互いに学び合う機会が確保されており、クラブの集団活動を豊かにしている。</p> <p>職員の声かけと手本によって、子どもが生活習慣を自然に身につけ、自立心を育んでいる</p> <p>手洗いやあいさつなど、日常生活に必要な習慣について、職員は継続的に声掛けを行っている。加えて、職員自身が模範となる行動を実践し、子どもたちに自然な形で習慣化できるよう促している。こうした取り組みは、単なる指導に留まらず、子どもが自発的に行動する力を育むことにつながっている。生活習慣の定着は、学童期における重要な育成課題であり、職員の姿勢と実践が、子どもたちの成長を支える基盤となっている。今後もこのような日常的な関わりを継続することで、児童の自律性がさらに高まることが期待される。</p> <p>職員は遊びや生活のルールを丁寧に説明し、子どもたちの集団活動を円滑にしている</p>		評価	標準項目		◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当	◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当	◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当			
評価	標準項目															
◎あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、発達段階にふさわしい遊びと生活を送ることができるよう環境を工夫している	○非該当														
◎あり ○なし	2. 子どもが集団活動に主体的に関われるよう、援助している	○非該当														
◎あり ○なし	3. 生活や遊びを通して日常生活に必要な基本的な生活習慣を習得できるよう、援助している	○非該当														

集団活動においては、子どもがルールを理解し、自ら行動できるよう職員が適切な声掛けを行っている。特に、新しい遊びを導入する際には、ルールの周知を徹底し、低学年には個別に説明するなど、年齢に応じた配慮がなされている。大人数で過ごす場面では、ルールの理解が円滑な活動にとり重要だと職員は考えており、丁寧な対応が子どもたちの安心感と主体性を支えている。こうした支援により、児童は集団の中で自分の役割を認識し、他者との関わり方を学ぶ機会を得ている。職員の丁寧な関わりが、子どもたちの集団生活を円滑にしている。

3 評価項目3 日常の活動に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動をつくり上げていく機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目3の講評		
<p>定期的なイベント開催と事前告知の工夫により、子どもたちの参加意欲を高めている</p> <p>クラブでは、毎月必ず何らかのイベントを実施しており、年に2回は児童館と連携した行事も行われている。夏休みなどの長期休暇には、事前にポスターやお知らせを掲示し、子どもたちの参加意欲を高める工夫がされている。こうした告知は早めに行われるため、子どもが予定を把握しやすく、楽しみにする気持ちを育んでいる。定期的なイベントの実施と丁寧な告知は、日常に変化と期待感をもたらし、子どもの生活に潤いを与えている。行事を通じて子どもが新しい体験に触れる機会が確保されており、活動の質を高める取り組みとなっている。</p> <p>遊びや行事で上級生を支援し、責任感や協調性を育んでいる</p> <p>運動系の遊びでは、上級生がリーダーシップを発揮できるような工夫がされている。下級生にやり方を教えたり、下級生が楽しめるよう活動をサポートしたりする姿が見られる。また、年度末の「進級お祝い会」では、3年生が前に立ち、言葉を言うなど役割を担う場面が設けられており、子ども自身が行事の進行にかかわる経験ができています。ポスターやお知らせを早めに出すことで保護者の理解や協力を得る工夫もしている。こうした関わりは、異年齢間の交流を促進し、上級生にとっては責任感や協調性を育む機会となっている。</p> <p>子どもが意見を出し合い、企画に関わることで、活動がさらに豊かになると期待される</p> <p>室内には意見箱が設置されており、本や遊具の希望などについて子どもの意見が取り入れられている。まや、活動には子どもたちが興味や関心を持ち、積極的に参加する様子が見られる。一方で、イベントについては、企画段階から子どもが関わる機会が設けられていない。職員が企画・運営を担うことで、活動は安定して進行しているが、子ども自身がアイデアを出し、活動をつくり上げる経験は限られている。今後、子ども同士が意見を出し合いながら、遊びや活動の企画に関わる機会を設けることで、クラブの活動がさらに豊かになると考えられる。</p>		
4 評価項目4 子どもの主体性を尊重し、学童クラブでの生活が楽しく、快適になるような取り組みを行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自ら進んで学童クラブに通い続けられるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 共通する生活時間の区切りをつくり、子ども自身が見通しを持って主体的に過ごせるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが安心して活動できるよう、状況に応じて室内の環境を工夫している	○非該当
●あり ○なし	4. 【「新・放課後子ども総合プラン」「都型学童クラブ実施要綱」に基づき放課後子供教室と一体型で実施、または連携して実施する場合】 子どもが放課後子供教室の活動プログラムに参加しやすいように連携を取りながら援助している	○非該当
評価項目4の講評		
<p>職員は、子どもが生活の見通しを持ち、安心して過ごせる環境づくりを行っている</p> <p>遊び・勉強・おやつ・帰宅時間などの生活時間が設定されており、職員がその都度声掛けを行い、子どもが自分の生活リズムを意識できるよう支援している。事務室前のホワイトボードにはその日の予定が掲示され、子どもが自ら確認できるよう工夫されている。登所後には連絡袋を退所時間ごとに区分けされたケースに入れることで、帰宅時間の把握が促されており、早く帰る子どもは早い時間帯のおやつに参加する対応がなされている。これらの取り組みは、子どもが自分の時間を主体的に管理する力を育み、安心して過ごせる環境づくりに役立っている。</p> <p>学校の協力のもと、部屋の活用により子どもたちが快適に生活できるようにしている</p> <p>クラブでは、天候や学校行事に応じて使用する部屋を柔軟に変更し、子どもが快適に過ごせるよう配慮している。校庭や体育館を活用した体を動かす遊びのほか、ミーティングルームでのおやつ時間など、活動内容に応じた空間の使い分けがなされている。さらに、家庭科室や会議室なども状況に応じて使用できるため、活動の幅が広がっている。こうした部屋の活用は、子どもの興味や関心に応じた選択肢を提供し、クラブでの生活をより快適で充実したものとしている。学校施設の柔軟な運用により、子どもの主体性と快適性が保たれている。</p> <p>職員の温かい関わりと工夫で、子どもが安心して楽しく通える学童クラブになっている</p> <p>学童クラブとBOPは一体的に運営されており、おやつや利用時間等に違いはあるものの、遊びのプログラムは共通しているため、BOP利用の子どもと同じ空間と一緒に活動することができている。職員は子どもの小さな成長にも目を向け、積極的に褒める姿勢で関わっており、子どもは自己肯定感を育みながら、学童クラブでの生活に安心と楽しさを感じることができている。利用者アンケートの総合的な満足度も非常に高い。職員の温かい関わりと運営の工夫で子どもの生活を支え、子どもが自ら通い続けたいと思える学童クラブになっている。</p>		

5 評価項目5 子どもが日々の生活を円滑に過ごせるよう、学校等と密に連携を図っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが学童クラブでの生活を円滑に過ごせるよう、学校との情報交換や情報共有等密に連携して援助している	○非該当
◎あり ○なし	2. 不登校など課題を抱える子どもについて、学校と密に情報共有しながら子どもの気持ちに配慮して援助している	○非該当
◎あり ○なし	3. 障害のある子ども(発達面で特に配慮が必要な子どもを含む)や養育環境で特に配慮が必要な子どもの援助にあたっては、関係機関(教育機関、福祉関係機関、医療機関等)と連携をとって行っている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>学校との定期的・継続的な情報共有や連携により、子どもの生活を支援している</p> <p>クラブでは、学校との情報交換会を年1回実施し、丁寧な情報共有を行っている。さらに、職員が日常的に職員室を訪れ、副校長や担任だけでなく、養護教諭やスクールカウンセラーとも対応方法について意見交換できるよう関係作りを行っている。こうした連携は、子どもの状況に応じた支援を迅速かつ的確に行うための基盤となっている。情報共有の際にはプライバシーへの配慮もなされており、安心して連携できる体制が築かれている。職員は、学校との情報共有、連携により、子どもの生活の安定と支援の質の向上に努めている。</p> <p>クラブでは、関係機関と連携し、子どもの福祉を支える体制が整えられている</p> <p>課題を抱える子どもへの対応においては、子ども家庭支援センターや児童相談所などの関係機関と連携を図っている。年度当初には、区および隣接する区の子ども家庭支援センターと連絡を取り、関係性を維持している。職員は子どもとの日常的な会話の中で気になる点があれば必ず共有し、必要に応じてクラブから支援センターへ相談を行っている。また、学校を含めた三者間での連携も図られている。こうした多機関との協働は、子どもの福祉を守るための重要な仕組みであり、実効性のある支援体制として築かれている。</p> <p>職員が連携しながら個別支援を行い、子どもが安心して過ごせる環境を整えている</p> <p>障害のある子どもや、養育環境に特別な配慮が必要な子どもへの支援にあたって、職員は一人ひとりの状況に応じて、学校や関係機関と密に連絡を取りながら対応している。特に課題を抱える子どもに対しては、情報を共有しながら、具体的な支援方法を検討している。子どもは、気の合う職員に話すことで安心感を得ることがあるため、職員は日々の会話を通じて得た気づきを積極的に共有し、早期対応に努めている。こうした職員の連携の姿勢は、子どもが安心して過ごせる環境づくりに大きく貢献している。</p>		
6 評価項目6 子どもがおやつを楽しめるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いておやつをとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
◎あり ○なし	2. 子どもの来所時間や夕食の時間帯等を考慮して提供時間や内容、量等に工夫を凝らしている	○非該当
◎あり ○なし	3. 子どもの食物アレルギーの状況に応じたおやつを提供している	○非該当
評価項目6の講評		
<p>子どもが落ち着いて楽しめるよう、おやつ時間の環境整備をしている</p> <p>クラブでは、学校のミーティングルームを活用し、14時30分から15時30分の間に4回に分けておやつを提供している。食事の場所は落ち着いた雰囲気が保たれており、子どもが安心しておやつを楽しめる環境が整えられている。アレルギーのある子どもや早く帰る子どもから順に食べ始められるよう、グループ分けされた名簿を入りに掲示し、子ども自身が名前を確認して着席する流れが定着している。こうした配慮により、子どもは自分の生活リズムに合わせておやつを楽しむことができ、集団生活の中でも個別のニーズに応じた支援が行われている。</p> <p>アレルギーの把握と複数の職員による安全管理を徹底し、事故防止に努めている</p> <p>入会時にはアレルギー調査を実施し、複数の職員による確認体制が整備されている。対象児童へのおやつは前日に準備され、当日は別の職員が再確認を行うことで、誤提供の防止に努めている。おやつ原材料表示を職員間で読み合わせ、アレルギー物質の有無に応じて箱を分けるなど、きめ細やかな対応が行われている。アレルギー物質と児童名が記されたお盆を使用することで、子ども自身も確認できる仕組みが整えられており、事故防止への意識が高い。こうした徹底した安全管理により、子どもが安心しておやつを楽しむことができるようにしている。</p> <p>おやつ時間には、楽しさとともに、礼儀や主体性を育む取り組みを実践している</p> <p>おやつ時間では、ある程度人数がそろった時点で「いただきます」を行い、「ごちそうさま」は個別に対応するなど、集団生活の中で礼儀を意識できるようにしている。座り方や姿勢、こぼさずに食べることなど、食事マナーについても職員が声掛けを行い、子どもが意識的に行動できるように促している。おかわりや意思表示にはグーチョコキパーなど手を使った合図を導入しており、子どもが自分の気持ちを静かに表現できるような工夫がされている。おやつ時間を通じて、楽しさだけでなく、主体性や礼儀を育む取り組みが継続して実践されている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的ケアが必要な子ども等に、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>職員の声かけと観察により、子どもの体調変化に早期に対応できている</p> <p>クラブでは、子どもが体調の変化を職員にすぐ伝えられるような体制が整えられている。下校時にはハンカチチェックを通じて子どもの様子や顔色を確認し、「何かあった？」と声をかけることで、心身の状態の把握に努めている。職員は日々のコミュニケーションを通じて信頼関係を構築することを重視しており、子どもが不調を訴えやすいよう、関係性や雰囲気づくりに力を入れている。こうした日常的な観察と声かけは、体調の変化に早く気づき対応することにつながっており、子どもの健康維持に向けた取り組みとして定着している。</p> <p>保護者との連携や子どもへの丁寧な声掛けにより、健康管理の質の向上に努めている</p> <p>職員は、子どもの体調や留意点について保護者からの聞き取りや児童台帳を通じて確認し、日々の支援に活かしている。体調不良や特別な配慮が必要な場合には、職員間で情報を共有し、迅速かつ適切に対応できる体制を整えている。また、子ども自身にも「調子が悪くなったらすぐに知らせてね」と伝え、自分の体調を言葉で伝える力を育む支援を行っている。休息場所の確保が難しい中でも、使用目的とは異なるスペースを活用し、子どもの体を休ませる工夫がされている。家庭との連携や子どもへの丁寧な声かけを通じて、健康管理の質の向上に努めている。</p> <p>けが予防への意識と安全な遊びの促進は、子どもの健やかな成長を支えている</p> <p>校庭や体育館での活動前に、けがの予防を目的として必ず準備体操をしている。途中から参加する子どもにも習慣化され、定着している。集団遊びでは職員も一緒に楽しみながら、子ども同士がじゃれ合う場面では声をかけ、安全に過ごせるよう見守っている。子どもが遊びに集中できるよう環境を整えることで、無理のない運動と心と体のリフレッシュになっている。こうした取り組みは、体の健康だけでなく、安心して遊べる心の安全にもつながっている。職員のけが予防への意識や積極的な関わりは、子どもの健やかな成長を支える大切な力となっている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの様子や発達の状況について、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 子どもの出欠席の確認など、保護者と協力して安全を確保する取り組みを行っている	○非該当
評価項目8の講評		
<p>急な依頼にも対応するなど、保護者の事情に応じて柔軟な対応がされている</p> <p>学童クラブ入会申請書の「保護者の状況」から各家庭の状況を把握し、保護者の就労や家庭の事情に応じて柔軟な対応がされている。例えば、土曜日の急な依頼にも可能な限り応じている。当日の育成時間の延長についても、連絡があれば対応している。こうした姿勢は、保護者が安心して仕事や家庭の予定を組み立てられる支えとなっており、子育てと両立する日々の中で心強い存在となっている。事前連絡のお願いなど、協力を呼びかける姿勢も丁寧で、相互理解を大切にした運営が感じられる。</p> <p>保護者同士の交流の場として、年2回(4月・3月)保護者会が開催されている</p> <p>保護者同士の交流の場として、年2回保護者会が開催されている。今年度は4月と3月に実施され、土曜授業のある午前中に合わせて日程調整を行っている。また、職員と保護者との信頼関係づくりに力を入れており、個人面談やお迎え時の会話を通じてコミュニケーションを深め、個々の状況に対応しながら、子どもの様子や育成方針について丁寧に情報共有が行われている。内容によっては場所を変えて話すなど、プライバシーへの配慮もされており、保護者が安心して相談できる環境が整っている。</p> <p>育成の中で、子どもの様子や発達の状況について保護者と共有している</p> <p>日々の育成の中で、子どもの様子や発達の状況について保護者と共有している。お迎え時の会話や電話連絡、メモの記入などを通じて、保護者との共通認識を築いている。連絡帳袋に入れたメモには、保護者からの確認印もあり、双方向のやりとりが丁寧に行われている。また、出欠確認は毎日徹底されており、登所予定の子どもが来ない場合には、保護者への連絡や校内確認、自宅訪問まで行うこともある。こうした細やかな対応は、子どもの安全を守るための真摯な姿勢として高く評価できる。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 学童クラブの行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが地域の子どもや大人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>年2回、出前児童館として工作や運動遊びなどのイベントを実施している</p> <p>クラブでは児童館と連携し、年2回「わくわく児童館」として工作や運動遊びなどのイベントを実施している。新BOPだよりで紹介され、多数の子どもたちが申し込みをしている。これは出前型の取り組みであり、児童館の資源を活用しながら、子どもたちに多様な体験の機会を提供している。こうした活動は、子どもが日常の育成時間とは異なる環境で創造的・身体的な活動を楽しむことを可能にし、生活の幅を広げる機会となっている。児童館との協働により、クラブ単独では難しい体験の提供が実現しており、今後も継続的な連携が期待される。</p> <p>コロナ以降、地域のまつりやイベントには、新BOPとしては参加していない</p> <p>かつては地域や学校開放委員会との交流があり、昔ながらのまつりに職員も積極的に参加していたが、コロナ禍によりイベントの中止が続き、関係性が途絶えてしまった。再開後も交流がない状況となっている。児童館のイベント等に職員や子どもが新BOPとして参加することはなく、一般参加として個人の判断に委ねられている。安全面や人員的制約もあり、積極的な関与が難しい状況にある。地域との交流機会の確保のために、改めて関係性を再構築しながら、無理のない形で参加できる方法について検討していくことに期待したい。</p> <p>新BOP連絡協議会を通じて、地域団体や関係者との意見交換が行われている</p> <p>新BOP連絡協議会を通じて、地域団体や関係者との意見交換が行われている。また、子育て会議や地域懇談会への参加を通じて、地域の一員としての役割を果たしている。校舎内の図書室は現在利用できないが、学校司書による出前読み聞かせの可能性が示唆されており、今後の展開が期待される。このような協議や情報交換は、直接的なイベント参加が難しい状況下でも、地域との連携を維持し、子どもたちの生活の幅を広げるための基盤となっており、クラブでの活動が充実していくことに期待したい。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-2	経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている
タイトル①	運営層によるリーダーシップにより、まとまりのある組織運営がなされている	
内容①	児童館長と事務局長(運営層)が中心となり、運営に関わる方針や重要事項を検討を重ねながら、理念や基本方針の実現に向け、職員が取り組むべき方向性を明示している。日々のミーティングには常勤・会計年度任用の職員が参加し、情報共有を緊密に行っている。プレイングパートナー職員へも情報を伝達している。所管課(児童課および地域学校連携課)で決定された内容と検討の経緯についても、館長や事務局長を通じて職員に確実に周知されている。運営層によるリーダーシップと情報の確実な伝達により、まとまりのある組織運営がなされている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-3	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	子どもに関する情報や支援内容が、日々のミーティングで全職員間で共有されている	
内容②	子どもに関する情報や支援内容について、日々のミーティングを通じて全職員間で丁寧共有されている。安心できる育成環境づくりのための大切な取り組みとして評価される。午後シフトの職員が出勤後に全体ミーティングを行い、遅れて出勤する職員には他の職員が業務の合間に内容を伝えるなど、細やかな配慮がなされている。夕方には遅番職員を中心に申し送りを行い、参加できない職員にも聞き取りや翌日の報告を通じて情報が行き渡っている。個人ノートやミーティングノートの活用により、育成中の気づきも共有され、職員同士の連携につながっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-7	子どもが心身の健康を維持できるよう援助している
タイトル③	子どもの健康と安全を支える、丁寧な関わりと信頼関係を大切にしている環境を作っている	
内容③	クラブでは、子どもが安心して体調の変化を伝えられるよう、日々の関わりを大切にしている。下校時のハンカチチェックや顔色の確認、保護者からの情報共有などを通じて、職員は子どもの小さな変化にも気づけるよう心を配っている。子どもが不調を訴えやすい雰囲気づくりには、信頼関係が欠かせないとの考えのもと、丁寧な声かけを重ねている。また、けがの予防として、準備体操の徹底や遊びへの集中を促す工夫が見られる。職員が遊びに加わることで、安全面への配慮と子どもとの関係づくりが両立されており、子どもの健やかな育ちを支えている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	職員間でのコミュニケーションを重視し、チームワークの良い、前向きな職員集団となっている
	内容	ミーティングを通じて意思疎通を図り、職員が意見を出し合いながら業務改善や職場環境の向上につなげている。職員の意識を把握し、意欲や働きがいを高めるため、話し合う機会を積極的に設けている。また、研修受講の調整は容易ではないが、受講を推進している。ロングミーティングの場で受講した職員による伝達研修を実施するなど、学びの成果の共有・浸透を図っている。職員間のコミュニケーションを重視し、積極的な意見交換が行われている。職員自己評価でもチームワークの良さを指摘する声が多く挙がっており、前向きな職員集団となっている。
2	タイトル	職員全体で年間の活動を振り返り、作成したシートを、エリアのBOP学童クラブ会議で共有し、クラブ間の横のつながりをつくっている
	内容	年度末には、正規職員・会計年度任用職員を含む全職員が参加して振り返りを行っている。年間目標やイベント、日々の役割分担などについて自由に意見を出し合い、細かな気づきまで記入された内容を項目ごとに整理している。翌年度の検討事項として文書化し、全員で確認・話し合うことで、職員の意識向上とサービス改善につながっている。さらに、作成した振り返りシートをエリアのBOP学童クラブ会議で共有し、情報交換を行っている。クラブ間の横のつながりが限られる中でも、貴重な取り組みとなっており、クラブ全体の運営の質向上に貢献している。
3	タイトル	学校施設を柔軟に活用し、子どもが安心して多様な遊びに取り組める環境を整え、豊かな遊びの展開につなげている
	内容	クラブでは、学校の協力を得て、校庭・体育館・ミーティングルームなど学校施設を柔軟に活用し、子どもたちがのびのびと遊べる環境を整えている。天候や学校行事に応じて使用する部屋を工夫することで、遊びの幅が広がり、異年齢の交流や新しい遊びの機会も生まれている。授業後には毎日体育館を使用できるほか、家庭科室や会議室なども状況に応じて活用されており、子どもたちの興味や活動内容に応じた空間づくりが実現されている。こうした施設の有効活用は、子どもたちの主体的な遊びを支え、安心して過ごせる場の提供につながっている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	子どもの意見を活動に反映し、主体性や創造性を育む取り組みの充実が今後さらに期待される
	内容	職員自己評価では、「子ども同士が意見を出し合いながら企画や活動を作り上げる機会が少ない」、「子どもの意見をもっと反映させたい」との意見が出されている。イベントの立案や計画への参加は限定的で、立候補した子どもが一部手伝う場面にとどまっている。一方で、意見箱を設置し、本や遊具の希望を取り入れる工夫も見られる。今後は、やってみたい遊びのアンケートや今までやってきた行事を自分たち流にアレンジする企画など、身近な活動から主体的な関わりを促すことで、子どもの創造性や協働する力を育む取り組みが進むことが期待される。
2	タイトル	指導員への配慮も含め、情報共有の方法や業務の見える化について、今後さらに工夫が進められることを期待したい
	内容	クラブでは、年度末には全職員で業務の振り返りを行い、率直な意見交換を通じて次年度の改善へとつなげている。また、手引書などを整備してサービスの基本事項や手順を明確にしている。しかし、日常業務の中では、これらの手引書などが十分に活用されていない場面も見受けられる。職員間の伝達が口頭中心であるため、作業手順の文書化が十分とはいえず、職員自己評価でも「認識の違いが生じることがある」との声が上がっている。短時間勤務の職員にも配慮した情報共有の方法や、業務の見える化の工夫が今後さらに進むことが期待される。
3	タイトル	クラブ運営に無理のない形で、地域との関係性を再構築しながら、交流の機会を広げる方法について検討していくことに期待したい
	内容	クラブでは、以前は地域や学校開放委員会との交流があった。昔ながらのまつりに職員も積極的に参加していたが、コロナ禍によりイベントの中止が続き、関係性が途絶えてしまっている。再開後も交流がない状況となっている。児童館のイベント等に職員や子どもが新BOPとして参加することはなく、一般参加として個人の判断に委ねられている。安全面や人力的制約もあり、積極的な関与が難しい状況にある。地域との交流機会の確保のために、改めて関係性を再構築しながら、無理のない形で参加できる方法について検討していくことに期待したい。